

熊本県立鹿本商工高等学校 令和7年度(2025年度)学校評価計画表

1 学校教育目標
<p>令和7年度(2025年度)熊本県教育委員会各課の重点及び取組の方向性をふまえ、本校の全ての教育活動を通して、校訓「創造・礼節・勤労」を基盤に、知・徳・体の調和に留意し、心身ともに健康で、豊かな心をもった生徒を育成する。</p> <p>社会的・職業的自立に向けた教育活動を展開することにより、次代の産業を担う誠実で自立できる産業人の育成に取り組む。また、地域と連携した実践的な活動を通して豊かな人間性を育み、地域社会から信頼される学校づくりを目指す。</p>

2 本年度の重点目標
<p>(1) 学力向上と教科指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上と資格取得の推進 ・次代の産業を担う「技と心と志」の育成 ・授業力向上と授業における情報化推進、自学の育成 <p>(2) 生徒指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に行動できる健全な心身の育成 ・段階的指導の有効活用ときめ細やかな生徒支援体制の充実 ・思いやりと感謝の心を持つ生徒の育成 <p>(3) キャリア教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立 ・将来への目的意識を持った勤労観・職業観の育成 ・就業体験の充実と生徒の特性に応じた進路指導 ・社会のニーズに対応した専門教育による知識、技術と倫理観の育成 ・マイスターハイスクールによるキャリア教育及び学習活動の推進 (地域や企業と連携したインターンシップや体験型専門教育の実践) <p>(4) 人権教育・道徳教育・主権者教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな人権感覚、人権尊重の精神と情報モラル・リテラシーの育成 ・体験的学習等を通じた公共心と感謝の心、命を大切にする心の育成 ・社会の形成者としての自覚と政治的教養の育成 <p>(5) 地域連携の充実(KSH事業プロフェッショナルハイスクール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に開かれた学校づくりとコミュニティスクール推進と取組の充実 (公開授業、体育大会、商工フェスタ、奎堂文庫展示資料室の一般公開等) ・地域との交流やボランティア活動の推進と更なる地域貢献活動の取組 ・かもと稲田支援学校高等部との協働によるインクルーシブ教育の推進 ・学校DXの推進とICTを活用した広報・情報発信の充実

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	教育目標の周知	<ul style="list-style-type: none"> ・重点目標の達成 ・生徒、保護者、職員による教育目標の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクール・ミッション及びポリシーに基づいた教育目標、重点目標を生徒、保護者、職員で共有し、積極的に取り組む。 ・職員が学校目標への理解を深め、実践に尽力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議や面接等で、本校のスクール・ミッションやポリシーについて説明を繰り返す。生徒、保護者に対しては、生徒総会や育友会総会等の機会に説明し、共通理解に取り組む。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・スクール・ミッションや学校経営方針が職員に周知されている。スクール・ミッションの設定した目標も職員や保護者に説明を繰り返す中で、浸透したと考える。今後も様々な機会を捉えて、全職員が同じ目標の下、同じベクトルで全ての取組をさらに推し進め、保護者の理解を深める。
			<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会を活用し、学校目標の理解と学校行事への協力を活発にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会や学年保護者会等をできる限り開催し、周知徹底する。 ・保護者会新聞「雲生る」やホームページを活用し、学校行事や活動を周知する。 		A

学校経営	働き方改革及び業務改革	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の効率化 ・超過勤務時間の削減 ・年休等の取得の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・閉庁日の設定と周知 ・業務の見直しを行う。 ・時間外勤務状況を把握し、管理職面談を実施 ・リフレッシュデーの設定と活用 ・教職員支援員の効果的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業期間や考査期間等に年休の取得を促し、その環境づくりに努める。 ・放送等で定時退勤を促す。 ・年間2回のストレスチェックの結果をもとに育成面談や産業医への相談につなぐ。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・会議等において、Chromebookを活用し、ペーパーレス化を図り、印刷軽減を図った。 ・月一回の衛生委員会を実施し、学校医にも参加していただき、職員の健康管理について協議した。超過勤務の職員に対しては教頭面談を行い、改善を促した。特別休暇や年次休暇の取得には管理職が声をかけ、とりやすい雰囲気になり、取得率も上昇した。 ・ストレスチェックの結果について校長が育成面談し、産業医への面接等を紹介した。今年度もゼロだった。 	
	育友会活動の充実	行事参加率の増加	各行事（総会、フェスタ、長距離走大会）の実施と参加者の増加	通知文章や、安心安全メール、の併用やホームページによる連絡徹底を図る。	B	ビーチボールバレー大会や商工フェスタ、長距離走大会の炊き出しは多くの参加者で大盛況であった。しかし、昨年同様、参加者の固定化がみられ課題として取り組む必要がある。	
	家庭・保護者との連携強化	アンケートや調査回答の増加	アンケートや調査回答率85%以上	アンケートや調査回答率85%以上	学校-家庭-地域をつなぐ連絡システム「すぐる」を活用し、送信回答へ。未読、未回答の家庭へ再送信を行う。	B	昨年度より「すぐる」の活用がさらに充実している。アンケートおよび調査を要する返信・回答率は85%であった。昨年度からの課題である未読、未提出の家庭からの返信に取り組んだが、思っていた改善にはつながらなかった。
		保護者による情報発信の取組	育友会新聞「雲生るる」の毎学期発行	広報委員会を開催し保護者目線での内容とする。	広報委員会は学校行事を写真を通して各家庭に発信し、活動を理解していただく重要な役割である。「雲生るる」を配付するための広報文化委員会を5回開催し、保護者の意見を取り入れた、充実した紙面が完成した。	A	
	入学者確保に向けた取組の充実	近隣中学校への情報提供の充実	中学校への説明会や配布物の充実と、ホームページの掲載数増加	設備の紹介や配布物の制作・配布、ホームページの活発な更新を行う。	生徒の活動を各中学校への訪問等を通して、中学生・保護者への情報提供を行った。ホームページには、学校行事や各学科の取組、部活動の記事を約200件掲載した。	A	
		山鹿地区高校合同説明会や体験入学の参加者の確保	体験入学の参加者数150名以上	近隣中学校を訪問して募集する他、配布物やホームページで広く呼びかける。	中学校訪問やホームページで広く呼びかけが、参加生徒数は130名だった。目標には達しなかったが、昨年度より、24名増加し、体験活動は充実したものになった。	A	
		前期及び後期選抜受験者の確保	受験者数120名以上(R7年度107名入学)	説明会や配布物、ホームページを充実させ、継続的に広報活動を行う。	各中学校説明会、本校主催の説明会、外部での説明会、各種広報紙、動画を含むホームページ記事を通して、近隣中学校や地域への広報活動を継続的に行った。ホームページの記事は各科目が毎週掲載し、行事等の紹介も迅速に取り組み、面白いものになっている。	A	
	学力向上	基礎学力の向上	定期考査における欠点者の減少	追考査対象者各学年3人未満	考査前学習会の対象者規定を変更する。	B	考査素点の結果より、学習会の対象者を選出した。対象者の人数は増加したが、追考査の対象者を減少させる指導ができたと考ええる。

学力向上		チャレンジタイムの充実	授業実施日に 90%実施	各種行事の日課変更においても時間を確保する	A	93%の実施をすることができた。マナトレ等を活用することで、生徒の基礎力アップと教科の負担軽減につなげることができた。
	授業の工夫・改善	ペア・ワークやグループ学習の充実	授業評価で該当項目のポイント3.8	協働をテーマに研究授業を行う。	B	7月3.7、12月3.7となった。教科ごとのばらつきがあるため、どの教科にも満遍なくなるような手立てを講じたい。
		観点別評価の見直し	各教科に検討を依頼し、生徒に周知する。	職員、生徒に周知徹底するためのシートを作成する。	B	観点別評価の見直しを行い、国語科、社会科、数学科が重みの変更を行った。評価シートへの掲載することができた。
キャリア教育(進路指導)	就職指導の充実	進路資料やポートフォリオ等を進路選択・決定に活用	3年間を見通したキャリアパスポートや進路ガイドの作成と活用	進路ガイドの情報や、キャリアパスポートの活用を促し、3年間を見通した計画的、組織的な進路指導を推進する。	B	進路ガイドをデジタル化し、全校生徒へのデータ配布と3年生への冊子併用を実現した。Chromebookの活用により、学期ごとの見直し・振り返りや各行事の記録が蓄積され、履歴書作成時の基礎資料として有効に機能した。今後は進路ガイドの質を高める必要がある。
		学年・学科・教科との連携	インターンシップの充実 学校紹介の就職内定率100%	2学年を中心に、学科や教科と連携をとりながら、インターンシップを成功させる。また、一人ひとりの進路希望に合わせた面接指導・学習指導を計画的に行い、進路実現に努める。	A	インターンシップは2学年や全職員の適切な指導やサポートにより充実させることができた。3学年を中心とした熱心な学習指導、面接指導等により就職希望者73名が学校紹介で受験し、内定できた。8名の不調もあったが、2次募集により10月には全員内定できた。よって目標である学校紹介の就職内定率100%を達成できた。
		企業情報と生徒の進路希望の共有	学年末までに1、2年生の大半が県内(地元)企業を知り、自分の希望する業種・職種選択を進めることと、その把握	キャリアサポーターや職員が収集した求人状況等の最新情報を随時提供する。自治体等と連携し、生徒が直接情報収集できる進路ガイダンスや職場見学等を行い、職業選択・決定に努める。進路閲覧室の大幅な改善。	B	進路閲覧室における求人票の掲示方法を刷新したことで、進路部職員の業務負担が軽減された。その結果、例年よりも迅速な情報公開が可能となった。2学期の職場見学に加え、3学期には近隣自治体や県北企業と連携したガイダンスを実施する。また、低学年からの継続的なキャリア教育を通じて、生徒が県内および地元企業の魅力を深く理解し、将来の選択肢を広げていくことを期待している。
		進学指導の充実	学年・学科・教科との連携	多様な進路先に対応し、希望する学校への進学率100%	各学年・学科・教科との連携をとりながら、一人ひとりの希望に合わせた教科指導・小論文指導等を行い、進路実現に努める。オープンキャンパスへの参加を積極的に促す。	A
生徒指導	生徒支援の充実	不登校生徒、困り感を抱える生徒への対応	生徒指導連絡会(毎月)や支援室会議(毎週)を実施し、情報共有を行う。	早期にSCやSSW面談、中学校との連携や巡回相談を実施する。	B	困り感を抱えている生徒についてSC面談を行い、家庭の状況に応じてSSWと連携した。また、中学校から聞き取りを重ねて、巡回相談を活用しながら支援の在り方を検討した。

生徒指導	校則見直しの取組	生徒会が主体となって校則を見直し、改変を行う。	生徒総会（6月）で校則改変項目を議決する。第2回学校運営協議会で諮り、来年度より施行する。	全校集会で生徒会が校則見直し案と生徒の現状を伝える。より良い学校生活づくりのために、生徒が課題を主体的に考える機会を設定する。	B	LHRや生徒総会の中で検討を重ね、生徒と教員が一体となって校則を見直すことができた。また、意見交換や情報収集、試行期間についての検証等を生徒が主体的に行い校則への理解が深まった。
	交通安全教育の徹底	交通ルール・マナーを遵守する態度の育成	交通違反、事故件数の減少	バイク通学生を対象に、原付講習会を年2回実施。更に交通安全啓発の為にバイク通学生臨時集会を開く。全校生を対象に交通講話を行う。自転車通学生のヘルメット着用を徹底する。	B	バイク通学生対象の原付講習会参加率は、欠席者指導を含めて100%であった。今年度、違反が1件、事故が5件発生した。その都度、臨時集会を行い交通安全への意識を向上させた。自転車通学生の事故は3件であった。通学途中のヘルメット未着用が報告が数件あった。交通安全講話（自転車）を検討している。
	主権者教育の充実	主権者意識の高揚、選挙違反者数	社会の形成者としての自覚と政治的教養の育成することで主権者意識を高め、選挙違反者を出さない。	生徒会選挙の立会演説会にて、実際の記載台・投票箱を用いた投票を実施する。また、授業を中心として政治的教養を育成する。	B	生徒会選挙の立会演説会では、実際の記載台・投票箱を用いた。また、立会演説会に先立って、公民科職員が投票の大切さについて講話を行った。
人権教育の推進	仲間の大切さを認める環境づくり	アンケート評価	仲間づくりのアンケートでの「うまいくった」の回答8割以上。	生徒支援室と連携して毎週1回チャレンジタイム等でピアサポートワークを実施。	B	3学期、1年生のチャレンジタイムで「私の四面鏡」等を実施し、自己肯定感を高め、互いを尊重し多角的に認め合う関係づくりに有効であったと考える取組であるといえる。
	職員研修の充実	職員の参加状況	全職員が1回は研修へ参加する。	・山鹿市や県人教等主催の校外研修への参加。 ・校内研修の実施。	B	全ての職員が校内外の研修に1回以上参加できている。校内研修については、人権教育推進委員会で、内容や日時などの検討を十分に行い実施する必要がある。来年度は早期に検討を行う。
	個々の生徒に柔軟に対応した支援や指導の充実	支援策の検討	個別の指導計画、支援計画作成とその活用及びケース会議の実施。	各部と連携して支援策などの情報共有と職員周知。	B	各部との連携を図る中で、人権教育推進委員会を十分に活用できなかったことが反省されるが、関係職員から生徒の状況や特性を聞く機会があった。来年度は、反省を生かして支援策などの情報共有を行う。
	命を大切にすることを育む指導	アンケート評価	4段階評価でアンケートを実施し、満足度平均3.5以上。	様々な人権課題の差別の現実に学び、自分事と捉え、自他ともに大切にすることを育成できる講演会の講師・内容の選定。	B	ハンセン病に対する知識を深めることができた。講師の中修一氏の話聞き、感想文から差別と闘うことで自分を取り戻し、力強く生きた姿に感銘を受け、自分のこれからの人生に生かしていく決意がみられた。
特別支援教育の推進	困り感を抱える生徒の把握	支援室会議と校内委員会の充実	支援室会議（週1回）、特別支援教育校内委員会（学期末）の実施	個別の面談等から生徒の困り感や合理的配慮について聞き取る。	B	担任、SCを中心に面談を行った。また、授業担当者は、支援を必要とする生徒に授業中は必ず声掛けをし、その都度困り感を聞き出し、解決するようにした。
	組織的な支援体制の構築	校内研修の実施および職員のSSW・SCとの面談の促進	生徒理解研修（年3回）、校内研修（年1回）の実施 職員とSSW・SCとの面談の実施	教科担当者会にて、教職員間で生徒の情報を共有する。また、SC・SSWや巡回相談を状況に応じて活用する。	B	教科担当者会で、気になる生徒についての情報を共有し、課題を出し合い支援目標を定めた。また、巡回相談を活用して、支援の助言を得た。SSWは2名申請し、本人及び家族支援をお願いした。

	個々の生徒に柔軟に対応した支援や指導の充実	支援策の検討	保護者の気づきアンケートや個別の指導計画、支援計画の作成、その活用及びケース会議の実施	個々の支援策についての情報を職員間で共有する。	B	個別の支援計画をもとに、該当生徒と関わる担任を中心として、授業担当者、SC、SSW 等と情報共有を行い、より良い支援の在り方を検討した。
いじめの防止等	いじめのない学校づくり	いじめの防止	生徒状況に関する情報共有を随時行う。	いじめ匿名通報アプリの一斉導入、生徒指導連絡協議会の実施、「いじめを許さない学校づくり」の校内放送	B	いじめ匿名通報アプリによる3件の情報提供をもとに即日対応した。放送を通して生徒と共に職員も「いじめを許さない宣言」を読み上げ、日々の学校生活を振り返りながら、いじめの防止を啓発した。
		いじめの早期発見と早期対応	いじめの見逃し件数ゼロ。いじめ認知の案件に対して速やかに解消する	毎学期、いじめアンケートを実施。いじめ対策職員研修の実施。年3回、いじめ問題対策委員会を実施。	B	2学期までのいじめ認知件数は9件。アンケート外の各事案に対しても速やかに対応し、解消に繋げた。状況の把握、指導、見守りを担任、学年、生徒部、保護者と連携して行い、早期対応につとめた。
地域連携 (学校運営協議会等)	地域連携の更なる充実	「かざぐるま」の活動	地域イベントでの販売実習活動を積極的に行う。特に、一つ一つの販売実習を充実したものとする。	ポップ作成や準備等の活動を通して、お客様に商品説明ができる力を持って販売実習に臨む。	B	今年度も多くの地域イベントへ積極的に参加をした。生徒たちは笑顔での接客を心掛け、お客様に対して丁寧に商品説明を行っていた。課題は、接客等の接客教育をさらに充実させること。
		熊本スーパーハイスクール(KSH)事業プロフェッショナルハイスクール	地域と連携した活動を積極的に行い、本校の魅力を発信する。また、商業科の地域と連携した商品開発や工業科のデジタル産業教育設備を活用した学校独自製品の開発等の技術力発信を行う。	第4回来民門前市の参画をはじめ、山鹿灯籠まつり LED 発光装置量産、中学生ものづくり体験教室、商品開発に伴う企業連携など商業科・情報管理科・機械科・電子機械科の全科の専門分野を生かして、地域に貢献していく。	A	第四回来民門前市では、4科の専門分野を活かした販売や実演、体験を実施し、地域活性化に貢献した。令和7年度の山鹿灯籠 LED 発光装置の納品数は120基、これまでに240本の納品を終え、千人灯籠踊り人の1/4を照らしている。中学生ものづくり体験教室では機械科が担当し、「ボルトアート」体験を通して、ものづくりの魅力や楽しさを伝えることができた。今年の商業科・情報管理科の新商品開発は「ふりかけ」「フタバ」と「卑弥呼醫院」のコラボレーションを実現した作品。みその香りが食欲を掻き立てる逸品。
		熊本県版マイスターハイスクール事業	令和8年度から本格的に導入される事業。地域産業の持続的な成長を牽引する人材育成に向けて、産業界・地域社会・学校が協力し、授業に参画する。	高度な専門知識や技能を生徒に身に付けさせるため、外部講師を招聘した授業を行う。令和7年度は、デザイン(商業系学科)、溶接(機械科)、ロボットシステムインテグレーション・半導体(電子機械科)等について実施する。	A	商業科と情報管理科は、熊本デザイン専門学校的外部講師から、商品デザインやポップ等の色彩技術を学んだ。電子機械科は産業用ロボットの自動システムの構築として、シナジーステム(株)からサポートを受け、装置製造技術やプログラミングなど応用技術の習得を行った。また、鉄道信号電気工事を経験させるため、県外企業のインターンシップ(2日間)で特殊技術を学んだ。電気工事士として、ライフラインだけでなく、鉄道信号のインフラ設備にも必要不可欠な技術を認識させ、資格の必要性を伝えることができた。

		県立高校半導体人材育成事業	半導体関連産業を中心とする本県の産業全体に対する生徒理解促進や興味・関心を高めさせる。	本校2年生を対象に、本事業を活用した企業見学を実施する。また、外部講師による出前授業や半導体エンジニア派遣も予定している。	A	半導体関連人材育成事業を活用し、企業・大学見学を行い、キャリア教育を行った。また、工業系(機械科・電子機械科)の2年生を対象に、(株)アムコー・テクノロジージャパンから半導体の出前授業を実施した。半導体の基礎・基本を学んだ。
コミュニティスクールの機能の充実		学校運営協議会の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価による改善対策 ・防災教育の充実 ・校則改定の枠組みの確立 	・年2回実施し、本校の教育体制や危機管理マニュアル、校則改定等について委員の意見を聴取する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会では生徒の活動の様子を紹介し、学校活動への理解を深めるとともに、校則見直し等も説明できた。 ・かもと稲田支援学校との合同避難訓練を実施した。 ・生徒1人1人のマイタイムラインを地域の防災支援委員の方の協力により作成した。
		地域と連携した取組の実施	地域のイベントへの参画や近隣の中学生を対象としたものづくり体験教室、山鹿地区県立高校による One Team 事業を活用し、地域の魅力を創出する。	山鹿人権フェスティバルや来民門前市を初めとした地域イベントに参加する。One Team 事業においては、「しぶうちわ」製作並びにドローン操縦体験を行い、伝統工芸の理解や先端デジタル機器の技術取得について深める。	A	「来民門前市や鹿北まつり、和木町古墳祭りなど多くの地域イベントに参加し、地域活性化に貢献した。また、山鹿県立三高校の One Team 事業として、栗川商店「渋うちわ」制作や菊池自動車学校「ドローン操縦体験」など、地域連携を行い、質の高い、共同学習を実施できた。地域の魅力や技術を学習するだけでなく、他校とのコミュニケーションも図れ、十分な成果を得た。
健康安全管理	保健管理	心身の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・保健調査や健康診断の実施により、指導や配慮を要する生徒の把握 ・特別な支援を要する生徒の把握 ・感染症のまん延を防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・治療勧告書発行及び未受診者への保健指導の実施 ・生徒支援室や特別支援コーディネーターとの連携による実態把握と早期対応 ・必要に応じた SC や SSW、関連機関との連携 ・健康観察票やすぐるによる欠席等の状況把握及び校内外の情報提供 ・生徒保健委員会による感染拡大防止啓発 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断の結果の見方や本校の健康課題をまとめた資料を作成し、治療勧告書とともに配付した。また、全校集会でも受診勧告を行い、夏休み明けに未受診の生徒には、個別の保健指導を行った。特に歯科については、生徒保健委員会にて啓発活動を行ったため、昨年度よりも受診率が向上した。 ・感染症対策では、12月にインフルエンザが流行したため、担任や養護教諭による健康観察の徹底とマスク着用等の指導、生徒保健委員会による昼食時の校内放送を行った。
		安全な学校環境の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検の実施 ・環境衛生検査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回、校内安全点検の実施及び修繕状況の把握 ・学校薬剤師と連携し、諸検査の実施と事後措置の徹底 ・産業医及び衛生管理者による職場巡視 ・美化委員会による校内外の美化及びごみ分別の徹底 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検実施後は、結果を事務部へ報告し、修繕対応を依頼するとともに、衛生委員会で情報共有を行った。安全点検の項目は、定期的に見直して多角的に点検できるよう工夫した。 ・8月に学校薬剤師による諸検査や薬品管理状況の点検等を実施した。 ・事務部と連携し、ごみ分別のプリントを作成、周知した。
		危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止及び緊急時の連絡体制を周知徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育的行事や部活動等での事故防止 ・職員のニーズに応じた救命講習会の実施 ・アレルギー疾患生徒の把握とアナフィラキシー発現時の対応について職員への周知徹底 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・体育科や部活動顧問と連携して施設や用具等の点検を実施し、体育的行事や部活動での事故防止に取組んだ。 ・職員対象に救命講習会前アンケートを実施し、結果を山鹿市消防署と共有して講習内容に生かした。

